

みんなで弾ける！アニメーション楽譜を活用したギター合奏

大阪府立すながわ高等支援学校 教諭 岩野 牧人

キーワード：特別支援学校、音楽、視覚支援教材、iPad、keynote

実践の概要

ギター演奏のための視覚支援教材として、アニメーション楽譜を作成した。生徒たちは、iPadで動く楽譜を見ながら演奏することで、音を鳴らす正しいタイミングをつかむことができ、仲間とともに絆を深めながら合奏に取り組みやすくなった。

1. 目的・目標

大阪府立すながわ高等支援学校（以下本校）は高等部単独の特別支援学校で、生徒たちは卒業後の就労を通じた社会的自立を目標に勉学に励んでいる。音楽科の授業では平成30年度からギターの学習に取り組んできた。意欲的な生徒がいる一方、中学校の音楽科の授業で「楽譜が読めない、周りに比べてできない」などの挫折を経験した生徒は楽器の演奏に不安感を覚えることが多い。

平成30年度の実践として、楽器演奏に対するネガティブな印象を少しでも和らげるために、カラーシールを貼った紙の楽譜で視覚支援を行った。楽譜に表記されている音符とギターの指板を押さえる場所とを一致させられるよう、3種類の形、7色のシールを用意し、ギターの指板（写真1）と紙の楽譜（写真2）それぞれに貼った。



写真1 ギターの指板

写真2 紙の楽譜

多くの生徒が紙の楽譜に貼られているシールを見て、

ギターの指板から同じ形・色のシールを探すことで、正しい音を演奏することができた。一定の成果が得られたものの、紙の楽譜では音を鳴らすタイミングが分からず合奏が難しい、という課題も見えてきた。教員が手を叩いて演奏の速度を指示しても、ある生徒は速く、ある生徒は遅く演奏するというような状況で、うまく合わせることはできないのである。障がい特性から周りに合わせることに難しい生徒も多いが、そんな生徒たちにこそ仲間と協力して合奏することの良さや楽しさを感じて欲しい。このような思いから、ICTを活用し課題を克服しようと考えた。

2. 実践内容

2.1 アニメーション楽譜の作成

平成31年度から実施している本実践では、紙の楽譜で行った視覚支援をさらに発展させ、音を鳴らすタイミングを分かりやすく示すために、まずアニメーション楽譜の作成を試みた。



写真3 アニメーション楽譜

作成に当たっては、プレゼンテーションソフト keynoteのアニメーション機能を活用した。写真3は、作成したアニメーション楽譜の画面である。横線はギターの弦を、数字と図形はギターの指板を押さえる位置を表している。この楽譜上を紫色の●が音楽に合わせて放物線を描きながら弾むように動き、音を鳴らす正確なタイミングを示す。

【本時の学習内容】

●指導目標／第1学年

ギターのアポヤンド奏法について理解し、アニメーション楽譜を活用した課題の演奏に集中して取り組むことができる。

音を鳴らすタイミングを意識し、グループで行う合奏に主体的に取り組むことができる。

【指導略案】

●単元指導計画（全体時間10時間）

- (1)「ギターを触ってみよう」（1時間）
- (2)「アポヤンド奏法でギターを弾こう（開放弦、押弦）」（2時間）
- (3)「アニメーション楽譜を使ってギターを弾こう（個人）」（3時間）
- (4)「アニメーション楽譜を使って合奏をしよう（グループ）」（3時間）
- (5)「発表会をしよう」（1時間）

●本時の目標と展開 令和2年11月 児童数10名

○約3か月に渡って取り組んだギターの学習のまとめとして、音を鳴らすタイミングを意識し、ギター合奏の発表に主体的に取り組む。仲間と協力して合奏することの楽しさを感じられるよう配慮する。

学習活動	生徒の活動	指導上の留意点
準備	各自ギター、足台、iPadを準備する。	楽器は特に丁寧に扱うことを確認する。
個人練習	アニメーション楽譜を見ながら自分が発表する曲の練習に取り組む。	音を鳴らす正しいタイミングを意識して練習に取り組むよう促す。
グループ練習	発表に向けて、同じ曲を練習している生徒同士で集まり、合奏練習を行う。	アニメーション楽譜を開始するタイミングをグループ全員でそろえることを確認する。
発表	グループごとに合奏の発表を行う。	発表する人はグループのお互いの音を聴きあうこと、発表を聴く人は演奏の良いところを考えながら聴くよう促す。
まとめ	お互いの演奏の良い点や感想をまとめ発表する。	合奏の良さを言語化できるように、適宜言葉掛けを行う。

「大きな古時計」「きらきら星」「星に願いを」「グリーンズリーブス」の4曲をそれぞれ2～3種の難易度別に分けて編曲し、計11種類のアニメーション楽譜を作成した。

2.2 アニメーション楽譜の活用

次に、この教材を実際の授業で活用した。生徒は1人1台iPadを机に置き、自分の演奏技能に合ったレベルのアニメーション楽譜を選択し、練習に取り組んだ。写真4は、レベル4の



写真4 アニメーション楽譜を使って合奏をする生徒の様子

「大きな古時計ベース」を練習した生徒とレベル10の「大きな古時計メロディ」を練習した生徒が一緒に合奏している様子である。同じ曲に取り組んでいる生徒同士で声を掛け合い、「せーの」の合図でiPadの画面をタップし合奏を始めていた。

2.3 アニメーション楽譜の公開

YouTubeにチャンネルを開設し、アニメーション楽譜の動画を公開している(写真5)。動画概要欄には、keynoteのアニメーション楽譜ダウンロード用QRコード(右参照)お



写真5 YouTubeチャンネル

よびギターの指板に貼るシールのデータを掲載している。

keynoteはApple社が開発しており、どのiPadにも無償で提供されている。特別なものではなく、一般的な純正のソフトを活用しているため、本実践はiPadがあれば容易に再現することができる。また、他のタブレット端末でも動画をダウンロードすることで利用可能となる。GIGAスクール構想が進展し1人1台端末の導入が本格スタートする中で、特別支援学校はもちろん、中学校や高等学校での授業の導入教材としても有効活用できると考えられる。

3. 成果

生徒たちはアニメーション楽譜を使った演奏に少しずつ慣れていき、タイミング良く正しい音を鳴らせるようになった。実践前に楽器演奏に不安があった生徒からも、「ゲームをクリアしていく感覚で楽しくできた」「動く楽譜が分かりやすく自分で練習を進められるから、自信をもって演奏することができた」などの声が聞かれた。

教員は、生徒へ音を鳴らすタイミングを教える時間が減ったことで、つまづいている生徒への個別指導により多くの時間をかけたり、進んでいる生徒へ音楽性が高い助言を行ったりすることができるようになった。また、普段の学校生活で会話することが少ない生徒たちも、同じ曲に挑戦していることをきっかけとして、対話を重ねながら協力して合奏に取り組む姿が見られた。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から他学年同士が一つの教室に集まり直接交流する機会をもてなかつたが、それぞれの生徒が



写真6 テレワーク合奏の様子

同じアニメーション楽譜を見ながら演奏し撮影した動画を組み合わせることで、学年を超えたテレワーク合奏を実現できた(写真6)。

以上のように、生徒たちがアニメーション楽譜を活用した合奏を通して自信と絆を深められたことは大きな成果であると考えられる。図1は、実践前と実践後の生徒たちの意識変化を示したグラフである。実践後に楽器演奏に対し自信がついた、合奏が好きになったと肯定的回答をする生徒が増えている。

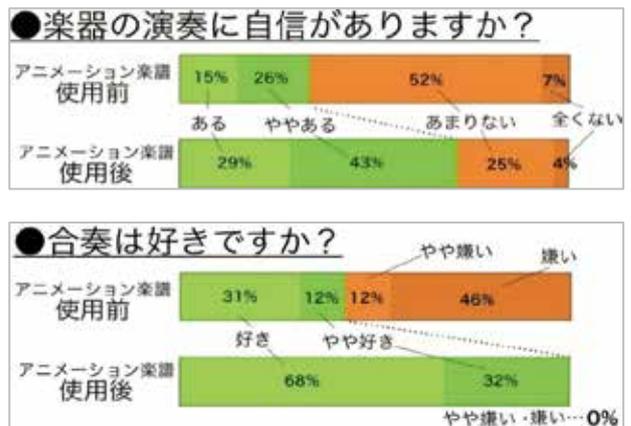


図1 生徒の意識変化

4. 今後に向けて

一般的な五線譜は、非常に便利なツールである一方で、読み方が難しく、楽器演奏から距離を置いてしまう原因にもなる。今回の実践を通して、ICTにはそのような壁を乗り越える可能性があることを実感できた。特にアニメーション楽譜は、見るだけで音を鳴らすタイミングが分かるユニバーサルな教材であるため、障がいがある子どもとない子どもとの合奏にも応用できると考えられる。今後も、ICTを活用した音楽科での実践を積み重ねることで、障がいの種類や有無を超えた「ともに学ぶ教育」の実現に寄与していきたい。